

Cover Model
Close UP!

南沢奈央

NAO MINAMISAWA

iPhoneのサイズで 悩んでいます。



MF 南沢さんはiPhoneをお使いですか？

今はiPhone SEを使っています。iPhone歴はもう6年くらいになるかと。

MF SEということは、iPhoneは小さいサイズがお好みなんですか？

そうですね。今は大きいサイズが主流になっていると思うんですが、ポケットに入れたり、片手で操作したいので、SEくらいのサイズがちょうどよくて。でも最近iPhoneで動画

を見ることも増えてきたので、大きいサイズもアリかなと、ちょうど悩んでいるところなんです。この前、赤いiPhoneが出たんですよ？ 少し興味があります！

MF ちょうど4月に出たばかりですから、おすすめですよ。さて、南沢さんはどんなアプリを日常的に使うんですか？

やっぱりInstagramやLINEは使うことが多いですね。あと先ほども言ったとおり、最

近はYouTubeやhulu、アマゾンプライムといった動画サービスを見ることが増えました。

MF インスタグラムには、普段どのような写真を投稿しているんですか？

読書が好きなので、「読書日記」を投稿することが多いです。本の写真なんですけど、背景を常に変えるように意識していて、机に置いてみたりとか、手に持ってみたりとか、公園とか外で撮ってみたりとか、いろいろ工夫するように

しています。

MF 今までの投稿で特にファンの方からの反響が大きかった写真を教えてください。

初秋に「コスモス」を見つけて、「ちいさい秋みつけた！」と投稿した写真とか、茹でたトウモロコシの写真とか、以外とそういうのが反応がよかったですね。

MF なるほど！ てっきり自撮り写真かと思っていました(笑)。

自撮りは苦手で、なかなか載せないですね…。でも、よくファンの方からリクエストされるので葛藤しています(笑)。

MF 期待しています(笑)！ インスタ以外に、南沢さんがおすすめのアプリはありますか？

フードデリバリーサービスの「ウーバーイーツ (UberEATS)」は便利です。私の周りでも使っている人が多くて、おすすめ。休みの日とか、家から出たくないときに利用しています。

MF 読書が好きな南沢さんですが、電子書籍は読まれるんですか？

今のところはほとんど紙ですね。やっぱり実際にページをめくりたくて。ただ、旅行に行くときなどはあまり本を何冊も持って行けないので、そういうときは電子書籍で読んだりしますね。あとは、本屋さん探しても見つからない本とか、すぐに読みたい本があったときとかもそうですね。

MF たしかに、「実際にページをめくりたい」という気持ちはよくわかります。南沢さんはどのような iPhone ケースを使っているのでしょうか？

ワニ革のピンク色のケースを使っています。SE を使い出してから、ずっとこれを愛用しています。ケースはほとんど変えずに、同じものを壊れるまで使い続けるタイプです。

MF ありがとうございます。ところで、普段検索サイトを使われると思うんですが、最近南沢さんは何を調べましたか？

「銭湯」を検索しました。銭湯が大好きなんです。最近お仕事で銭湯の番頭さんとお会いする機会があったんです。

MF なんとも珍しいお仕事ですね！

そうなんです！ しかもその方は女性で、私と同じ年の番頭さん。そういう方がいらっしやるんだ！ 驚いて、いろいろな銭湯を検索しました。最近銭湯にも IT が入ってきていて、銭湯の中でプロジェクト マッピングをやっていたりとか、WiFi が飛んでいたりとか、

すごいんですよ(笑)。

MF それはすごい……！ 私「銭湯」と調べてみますね。さて、これから舞台「ウォーター・バイ・ザ・スプーンフル」のお話をうかがいます。まず、本作への出演が決まったときの率直な感想からお聞かせください。

作品自体がビューリッツァー賞戯曲部門賞を受賞した海外のものなんです。それを G2 さんが翻訳・演出を担当されるということで、どのような作品になるんだろう！ とワクワクしたのを覚えています。

MF G2 さんが「この戯曲を演出したい！」と心から願った作品だとうかがいました。

「ドラッグ中毒」だったとか、一般の方にとってはなかなか馴染みのない設定が出てくるんですけど、「人生の中の挫折」とか、「何かを乗り越える」というテーマ自体は、きっと誰しも共感できる部分なのではないかと思っています。そういう部分をしっかりと描くことができたなら、いろいろな人に何かを感じ取っていただけるのではないかと。また、作品の中ではオンラインチャットのやりとりも大きな枠組みのひとつなのですが、それをどのように描くかというところにも注目していただきたいです。

MF 南沢さん演じる「ヤズミン」はどのような役柄なんですか？

ヤズミンは主人公エリオットの従兄弟で、大学の非常勤講師という役柄です。従兄弟なんですけど、兄弟と思うくらい距離感が近くて、彼の理解者でもあります。でも、離婚調停中だったりとか、どこか人生に行き詰まりを感じていて登場人物の中で唯一薬物中毒者ではない役なんです。何か、何かに依存していたり、執着しているという意味では、皆と同じなのかもしれません。これまでこのような役柄を経験したことがなかったもので、さまざまな部分で深みを出せるように役作りに努めたいです。

MF これから稽古に入るそうですが、難しい役柄に対して、どう役作りしていきますか？

「離婚調停中」というところから始まるので、ま

ずどんな人と結婚していて、どうして離婚したのか、そういった人物像をしっかり把握していきたいです。あとはエリオットやエリオットの実母であるオデッサなどとの関係性ですね。過去にさまざまなことがあったということを踏まえてのスタートになるので、その過去の部分をしっかりと詰めていく必要があると思っています。

MF 翻訳・演出を担当する G2 さんの印象を教えてください。

G2 さんとは 6、7 年前に「8 人の女たち」という作品で一緒に働かせていただいたり、それ以来になります。またぜひ一緒に働きたいと思っています。なので、それが実現できて本当にうれしいです。G2 さんは柔らかい話し方をされるし、常に二

登場人物が一步前に進むことで、 見ている方も前向きな気持ちになってくれたら。



「ウォーター・バイ・ザ・スプーンフル」

～スプーン一杯の水、それは一步を踏み出すための人生のレシピ～

公演：2018年7月6日(金)～2018年7月22日(日)

会場：紀伊國屋サザンシアター TAKASHIMAYA ほか、大阪公演あり

作：キアラ・アレグリア・ヒュティス／翻訳・演出：G2

出演：尾上右近、篠井英介、南沢奈央、葛山信吾、鈴木杜麻、村川絵梨／陰山泰

2012年にビューリッツァー賞戯曲部門賞を受賞した「ウォーター・バイ・ザ・スプーンフル」が日本初上演。数々のエンターテインメントの名作を手掛けてきた G2 による翻訳・演出、そして歌舞伎界の新鋭・尾上右近が自身初となる翻訳現代劇の舞台に挑む。なぜ人は薬物に救いを求めてしまったのか、彼らが求めていたものが本当は何なのか、そこから立ち直ったあと、人々がどうやって生きていくのか。コカインとインターネットという2つの媒介を通して対比させることで、人と人との触れあいや絆が、いかに大切なものであるかをくっきりと浮かび上がらせる。

コニコされていますが、指摘されるところは鋭かったり、細かいところまで見ていらっしやっています。表情からは読めない部分がたくさんあるので、結構ミステリアスな印象もあるんです。前作では一番に「声」を大事にしようと言われたのを思い出します。声の表現力を磨くこと、意識することが、舞台をやっていくうえで本当に役に立っているの、今回もいろいろな部分で勉強させていただきたいです。

MF 本作ではチャットを使ったオンラインでのコミュニケーションもひとつのテーマとなって

います。南沢さんは、実際にメールやメッセージなどでコミュニケーションを取る際に気を付けていることってありますか？

やっぱりオンラインだと文字でしか伝わらないので、誤解も生まれやすいですね。でもその割に、簡単に気持ちを送ってしまったら、表現できてしまう怖さみたいなものもあって。私もインスタで投稿するときとかそうなんです、内容を書き終わってから投稿するのに半日くらいかけてます(笑)。1回書いたとしても、勢いで書いてしまうことも多いので、そのままアップし

ないで時間をおいてから確認したいんです。それくらい、常日頃気をつけています。

MF その姿勢、素晴らしいです……!

メールやメッセージでのコミュニケーションって、何か普段直接人と会うときの自分じゃない気がするんです。何か自分がオンライン空間にいるというか、面と向かつては言えない言葉がふつと降ってくるというか。なんだか不思議ですね(笑)。

MF 不思議な感覚……とても共感できます。それでは最後に読者に向けて作品のPRをお願いし

ます。

オンラインとオフラインで人と人がつながって、それぞれが抱えている悩みや障壁を乗り越える、一歩踏み出していくというのが1つのテーマになります。登場人物が一歩前に進むのと同時に、作品を見ている方にも前向きな気持ちになってもらえたらなど。そうやって全員が前を向いていけるよう、キャスト、スタッフ皆で力を結集させて、いい舞台、いいお芝居にしたいと思っていますので、ぜひ劇場に来てください! お待ちしています。

(取材・文/編集部)



みなみさわ・なお

1990年6月15日生まれ、埼玉県出身。2006年、テレビドラマ「恋する日曜日・ニュータイプ」で主演デビュー。代表作に、映画「象の背中」(2007年)、「赤い糸」(2008年)、ドラマ「なるようになるさ」(2014年)など。NHK Eテレの科学教育番組「サイエンスZERO」で6年間ナビゲーターを務めた。

Photograph ● 長屋和茂

Hair & Make-up ● サカノマリエ(アルール)

Stylist ● 大村淳子(Juicy)